

教材・支援機器活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成(29)年度
		書字に難しさのある生徒に対する特別活動におけるiPad利用
授業について	教科名等	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input checked="" type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	特別活動(行事等の提出物作成、学級活動の記録)
	授業の目標	学校行事のレポート提出で、IT機器を使用することにより書字の遅さ、読みにくさを改善する。 HR活動で生徒間で共有する情報を文書化する。
	観点別学習状況の評価の観点	<input type="checkbox"/> 「知識・理解」 <input checked="" type="checkbox"/> 「技能」 <input type="checkbox"/> 「思考・判断・表現」 <input type="checkbox"/> 「関心・意欲・態度」 <input type="checkbox"/> その他()
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input checked="" type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (高等部 2) 年 (8) 人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の課題(特性・ニーズ)	<input type="checkbox"/> 見る <input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 読む <input checked="" type="checkbox"/> 書く <input checked="" type="checkbox"/> 計算する <input checked="" type="checkbox"/> 推論する <input checked="" type="checkbox"/> 運動と姿勢 <input checked="" type="checkbox"/> 日常生活活動 <input type="checkbox"/> 不注意 <input type="checkbox"/> 多動性・衝動性 <input type="checkbox"/> 社会性・コミュニケーション <input checked="" type="checkbox"/> 覚える・理解する <input type="checkbox"/> その他 書字は、補助具を使い、鉛筆書きは可能であるが、大変に時間がかかり、かつ判読が難しい。表現力は豊かで、会話は堪能だが、情報量が増えると混乱し、理解が及ばないことが多い。情報を分別整理し、順序立てて処理することが難しい。ノートテイクは考えながら書くことは難しく、聞き書きになるが、書字速度が追い付かないため情報の取りこぼしが多い。姿勢の保持が難しく、長い時間筆記をすると上半身が左に傾き疲労も増加する。大学進学を希望しており、進学後のレポート提出等を考慮すると、早急に筆記の速度や字面を改善する必要がある。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称と画像	iPad(ワード、パワーポイント、「key note」(プレゼン資料を作成する時に使う)「note」(PDF化されたプリントなどを解くときに使う)「iテキスト」(作文を書くときに使う))
	活用のねらい	Aコミュニケーション支援(<input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input checked="" type="checkbox"/> C3社会生活支援) 学校行事のレポート作成、HR活動のレジメ作成、行事司会原稿の作成に使用する。特別活動の場合は、話し合いで決めたことの共通理解が必要になる。この際レジメは重要な役割を果たす。本生徒は書字が判読しにくく、他の生徒に読ませることも難しい。また筆記速度が遅く、授業の終了までに作成し終わることが難しい。iPadは生徒所持のものを利用している。「word」で作文し、本人が家庭で出力、または担任にメール添付で提出し出力することで、学級活動に役立つ資料作成をさせる。レポート等については、情報整理に難しさがあるので、メモ書き等で持ち帰り、再考してからまとめたものを提出させる。手の動きの難しさを考慮すると、読みやすい字を書かせる指導には限界があるので、iPadによる電子ファイルで代替し、文書校正など進路に必要な指導を行えるようにする。
授業に授業展開を支援	授業展開と画像	文字入力を行いながら話し合いなどの活動に参加することが難しいので、メモ書き手書きで作製する、もしくはiPadで板書を写真に撮っておく。これらの資料を自宅までまとめ、翌日提出するように指導している。授業時間内に提出させると時間が気になり、焦るあまり思考が中断するので、支度で作業ができる余裕を持てるように予定を立てることも同時に指導している。写真は、手書き文字とiPadでの入力の様子 
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	行事等で自分の役割部分をwordで作製することで、他の生徒との情報共有が容易になった。また委員会活動や部活でも周知したいことを配布物にすることができている。情報を共有し意見をまとめることが容易になったので、積極的に委員や部長を引き受けるようになった。iPadを使用しないと読みやすい字を書くことから努力しなければならないが、iPadであれば指先の操作で電子文書作成ができるので、教員側は情報整理、文書構成について集中して指導することができる。本生徒は、会話の理解が難しい部分もあり学級活動では黙り込む場面が多かったが、委員などを引き受けることで自信を深め、物事に積極的に取り組む姿勢が顕著になった。他者との情報共有能力を高めるといった点で、iPad導入は効果が高い。今後は入力速度を速めることが課題になるため、アクセシビリティ機能の活用などの工夫を継続する。